

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立特別支援学校西日野にじ学園 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		児童生徒の自立と社会参加を推進するため、一人ひとりの能力・特性に応じた教育をすすめるとともに、自立のために必要な知識・技能を身につけることにより、社会の一員として明るく、主体的に生きていく人間の育成に努めます。
(2)	育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情が明るく、自ら意欲的に学ぶ子ども</li> <li>・自分の成長に感謝し、自他のかげがえのない命を大切に</li> <li>・基本的な生活習慣が身につく、健康で安定した生活ができる体力や精神力がある</li> <li>・社会的・職業的に自立し、コミュニケーション力や社会性が身についている</li> </ul>
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的で熱意ある指導（よく理解する、待つ姿勢、褒める指導）</li> <li>・相手を尊重しお互いを認めあう「和・協力」を大切にした職場</li> <li>・児童生徒保護者・地域から信頼される教職員となるための行動が取れる</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>児童生徒：毎日の学校生活が安全安心で楽しいものであってほしい。 自らのもてる能力を十分に引き出してほしい。 友だちや教員をはじめとする様々な人とのつながりをつくりたい。</p> <p>保護者：安全安心で楽しい学校生活を送ってほしい。 保護者との連携を十分にしてほしい。 卒業後の自己実現にむけての取り組みをしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会・学校所在地住民等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな学校でどんな児童生徒がいるのか知りたい。</li> <li>・開かれた学校であること。</li> </ul> </li> <li>○交流相手校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流学習等により自校の児童生徒の障がい理解や人権感覚の育成につなげたい。</li> </ul> </li> <li>○実習先・就労先 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なこと（挨拶・働く意欲など）は学校で身につけてほしい。実習から実際の就労後まで継続的に連携したい。</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会・学校所在地住民等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のことを顔が見える形で知ってほしい。</li> </ul> </li> <li>○交流相手校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の児童生徒のことを理解してほしい。</li> <li>・同世代の子どもとして対等な関わりが生まれることを期待している。</li> </ul> </li> <li>○実習先・就労先 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の安心で意欲的な労働・生活の場を提供してほしい。</li> </ul> </li> </ul>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策と保護者連携を両立させ、労力と時間を軽減できるような方法を模索していく必要がある。</li> <li>・感染症の影響で地域との連携が薄くなっているため、感染防止対策を徹底した上で地域連携を進め、地域とのつながりを深めていく取り組みを推進したい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、教育実践の充実に向けて各学部でテーマを設定して取り組み、効果的な指導がなされ、実践力の向上を図ることができた。今年度は、小学部から高等部までつながるキャリア教育の充実に向け、各学部で具体的なテーマを設定して進めていく。</li> <li>・児童生徒数の増加、実態の多様化が進んでおり、児童生徒の多様化に対応した教育課程・教育環境整備の検討を行う必要がある。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の個に応じた指導システムの一部修正を受け、より充実した実践と評価が求められる。</li> <li>・ICT教育の推進に関しては、研修の推進と整備が効果的に進められ、教育実践に活用できるためのスキルアップ・環境整備がなされた。今後も教職員研修の充実を進め、技術向上を図っていく。</li> <li>・地域における障がい者理解を深めるとともに、児童生徒の自立と社会参加に向けて、交流学習及び共同学習の充実、地域住民とのつながりを強化する必要がある。</li> <li>・児童生徒にとって学校が安心できる居場所であると意識できるよう、命を大切にする教育、人権教育、いじめ防止の取り組みの更なる充実・早期対応を進め、児童生徒の生きる力を高めるための組織的な指導支援を継続していく必要がある。</li> </ul>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒及び保護者・関係者からの信頼に応えられるよう、児童生徒の特性を理解した誠実な支援を行うとともに、人権を重んじた真摯な態度で教育活動を推進する必要がある。</li> <li>・児童生徒数増・多様化への対応、児童生徒の特性・発達に対応した教育を進めるため、教職員の専門性及び授業力向上のための全体研修、授業研究等の充実を行う必要がある。</li> <li>・災害時対応や危機管理マニュアルの検証・改訂を進めるとともに、災害時における教職員の対応力向上を図る必要がある。安全安心な学校づくりに向け取り組んでいく必要がある。</li> <li>・市町教育委員会との連携及び巡回相談の継続、地域における特別支援教育推進のためセンター的機能の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>教職員はやりがいをもって業務に従事しているが、職場環境の整備、業務内容の見直し、総勤務時間の縮減といった課題解決に向けた取り組みを推進する必要がある。</p>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から高等部までつながるキャリア教育の充実に向け、各学部で具体的なテーマを設定して組織として推進する。</li> <li>・児童生徒数増、多様化に対応した教育課程、教育環境整備の検討を進めるとともに、個に応じた指導実践と評価の充実を図る。</li> <li>・地域における障がい者理解、児童生徒の自立と社会参加に向けた取り組みを推進する。</li> <li>・命を大切に教育、人権教育、いじめ防止の取り組みの充実・早期対応を進め、児童生徒の生きる力を高めるための指導支援を組織的に行う。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事を自分事として捉え、自己の使命と職責の重さを自覚した上、強いコンプライアンス意識をもち、保護者・関係者との信頼向上と不祥事根絶に向けて取り組む。</li> <li>・児童生徒数増・多様化への対応、児童生徒の特性・発達に対応した教育を進めるため、教職員の専門性・授業力向上のための全体研修、授業研究を進める。</li> <li>・多様な場面設定での防災・避難訓練の実施、危機管理マニュアルの検証・改訂を行い、安全安心な学校づくりを推進する。</li> <li>・市町教育委員会との連携及び巡回相談、地域の学校や関係機関への情報発信により、地域におけるセンター的機能の充実を図る。</li> <li>・働きやすい職場づくりのため、組織・業務の見直し、総勤務時間縮減を推進する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実	<p>【小学部】</p> <p>○係や当番活動を通じ、周囲から感謝されたり認められたりする経験を積み、自らの役割を果たそうとする姿を育む。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループで児童の実態に合わせた活動を設定する。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回グループ担当間で検証を行い、学期に1回、学年部会で情報交換を行う。</li> </ul>	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループで係や当番活動を設定し取り組んだ。月に1回グループで検証し、より実態に応じた活動の設定や、主体性を高める支援へと繋げることができた。</li> <li>・学期に1回学年部会で情報交換を行い、成果や課題を情報共有した。</li> <li>・継続して行うことで、児童が自主的に係活動に取り組む姿が増えた。感謝や賞賛の言葉を受け、進んで教員を手伝</li> </ul>	

キャリア教育の充実

【中学部】

○様々な行事において、見通しを持って参加する生徒やリーダー的役割を担う生徒の育成を図る。

○作業学習において、一人でできることを増やし、働く姿勢を身につけるよう支援する。

（活動指標）

・事前・事後の学習や実行委員会活動の充実を図り、反省会や反省アンケートで取り組みを検証する。

・視覚支援教材や補助具の開発、選択肢を利用する、といった工夫と評価の場の設定等を行う。

（成果指標）

・実践の成果と課題についての話し合いや情報共有を学期に1回以上行う。

・反省アンケートでの教職員の満足度 80%以上。

【高等部】

○全コースにおいて働くことの喜び・意欲などの職業的態度を育てる。

（活動指標）

・作業・職業コースのすべての生徒に対して、週1回程度の進路学習の時間を設ける。

・生徒の実態に応じて、現場実習前に本人・保護者と目標を設定して取り組み、事後に目標達成度を確認する。

（成果指標）

・進路学習の取り組みを記録・保存 100%

【学校全体】

○西日野キャリアプランに対する、具体的な取り組みについて全学部を通して共有する。

○昨年度実施できなかった小中学部の教員による福祉施設見学を実施し、卒業後を見据えたキャリア教育に生かす。

ったり、友だちを助けたりする児童が多くなった。

【中学部】

・「個に応じた事前事後学習の充実」「実行委員会的活動の充実」について取り組めた教職員は100%。すすんで行事に参加する生徒、および企画・運営にやりがいを感じる生徒が多数いた。

・作業学習において生徒が「一人で取り組める場面を増やす工夫」「働く姿勢を意識する場の設定」について取り組めた。教職員は100%で、生徒にとってわかりやすく取り組みやすい支援教材やシステムの導入ができた。

【高等部】

・進路学習を生徒の実態に合わせ、100%実施できた。3年生作業コースにおいては1学期4回実施し、2学期以降毎週実施できた。学習の記録保存は作業コースの達成率100%。職業コースは年度末に100%達成見込みである。

・現場実習前に目標設定し、実習後の達成度確認は100%であった。

・生徒の不安感や気持ちを受け止め、乗り越えられるように個別に相談受け、家庭と連携をとった。継続していきたい。

・夏季進路全体研修会では、縦割り班を作り、全学部でキャリアパスポートを確認することができた。

・施設見学の観点を明確にし

<p>キャリア教育の充実</p>	<p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会で、学部が混在した縦割りグループをつくり、各学部のキャリアプランの取り組みについて意見交換の場を設定する。</li> <li>・小中学部の教員への施設見学を、見学におけるポイントも含めてアナウンスし、参加を促す。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で行っているキャリア教育について共有する機会を持つ。年1回以上</li> <li>・施設見学に参加の小中学部教員の割合 35%以上</li> </ul>	<p>てアナウンスすることができた。施設見学は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった施設もあったが、進路専任による代替の福祉施設説明会も含め参加者は34.2%となり、ほぼ目標を達成できた。</p>	
<p>教育課程の検討と個別の指導計画の充実</p>	<p>○多様な児童生徒に対する、教育課程の課題を検討して見直しを行う。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部での検討の機会を2回設定する。</li> <li>・全体での教育課程検討委員会を2回以上開く。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部での課題をもとに部内で認識した教育課程を編成する。</li> </ul>	<p>・小中学部は、教育課程を一つにし、重複認定児童生徒は、実態に応じ、かつ個々に配慮した教育活動を行うことを確認した。高等部については、教科等合わせた指導「日常生活の指導」の内訳の見直し、教科設定の見直し(生単⇒家庭)を行った。</p>	
<p>地域との共生</p>	<p>○コロナ禍を考慮した居住地校交流を進め、相互理解や生活の基盤づくりを図る。</p> <p>○情報教育部中心に、保護者が見やすくわかりやすいホームページへの刷新を行い、学校からの情報を伝わりやすくする。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者の意向をふまえて直接もしくは間接的な交流を行う。コロナ禍でも対応できる交流の仕方を模索する。</li> <li>・ホームページのデザインを一新する。</li> <li>・ホームページの更新頻度を上げる。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校や保護者と、成果や課題について意見交換を行い次年度へ繋げる。</li> <li>・ホームページの更新頻度を月に1回以上</li> </ul>	<p>・居住地校交流は、小学部63名(直接交流が30名、間接交流が33名)。          中学部13名(直接交流が12名、間接交流が1名)。          ・相手校との反省会や保護者へのアンケートを実施し、次年度へ繋げるようにした。          ・学校間交流として、小学部1回以上、中学部4回を間接交流(オンラインでクイズや折り紙等の双方向でのコミュニケーションが取れる交流)を実施した。高等部は、作品展やオンラインでの間接交流とサッカー部の合同練習による交流、作業コースの作品の販売といった直接交流を実施することができた。          ・10月17日より、ホームページを刷新した。児童生徒の様子を伝えるニュースの更新を月1回から2回に増やして</p>	

		実施している。	
生きる力を高める教育の実践	<p>○児童生徒の実態に合わせて自他の命を守る学習に取り組む。</p> <p>○いじめ等の未然防止・早期発見・早期解決に努める。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の大切さ」や「人の感情」、「セルフコントロール」に関する学習を行う。</li> <li>・交通マナーや、携帯電話・スマートフォンの適切な使い方等に関する学習を行う。</li> <li>・スクールカウンセラーと連携をし、悩み等への解決に導く環境を作る。</li> <li>・生徒会で、いじめ防止に対するピンクシャツ運動に取り組む。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学部の性の学習への取り組み 年3回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じ、各学部においてソーシャルスキルトレーニングならびに性の学習、「命を大切にするための教育」を系統的に実施した。</li> <li>(年3回以上実施)</li> <li>いじめ防止や問題行動等の改善に向け複数の部と連携を行い、対策や対応について検討および情報共有を行った。</li> <li>・外部講師による「通信機器の適切な使い方」に関する学習を実施した。</li> <li>・生徒会によるピンクシャツ運動を実施し、児童生徒向けにいじめ防止啓発を行った。</li> <li>・人権サークルではいじめ防止のポスターやCMを作成した。</li> </ul>	

### 改善課題

各学部での取組を中心に、掲げた目標に対しての達成度は高いものとなった。昨年度と比べ、コロナ禍における過ごし方や感染対策をふまえ、個に対する支援をより重視したことで、達成度を高められたと考える。学部での目標達成に向けた取組に加え、キャリア教育の一環として学部間の連携を意識し、先を見据えた取組が進められたと考えている。

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
信頼向上・不祥事根絶の取組	<p>○学校信頼向上委員会を月1回程度開催し、信頼向上・不祥事根絶に取り組む。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向けハンドブックを活用しながら、不祥事の事後についても触れ、未然防止を図る</li> <li>・事例について、小集団での話し合いを持ち、同僚性を育む</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスミーティングおよび、教職員アンケートを学期に1回実施</li> <li>・長期休業中に研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の委員会開催を目指しながら、年間で8回の信頼向上委員会を開催した。(2月末)</li> <li>・全職員向けに研修会を夏季休業中に実施し、ジャムボードを使って全職員で意見交流を行った。</li> <li>・学期に1回以上、合計5項目にわたってハンドブックを用いたアンケートを全職員で実施し、結果について報告した。(2月末段階)</li> </ul>	

<p>危機管理体制の強化</p>	<p>○南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時における対応について考える。</p> <p>（活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校における防災の手引き」および「学校管理下における危機管理マニュアル」の改訂版等を参考にしながら、本校の危機管理マニュアルの年度内の改訂に努める。</li> </ul> <p>（成果指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練および安否確認訓練—4回以上実施</li> <li>・職員向け防災研修—1回実施</li> <li>・全校防災学習—1回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル改訂に向けて内容を現在も検討を進めている。</li> <li>・避難訓練4回実施済み（5月・6月・9月・11月）</li> <li>・全校防災学習を2回実施（9月2日、9月20日）</li> <li>・下校時安否確認シミュレーション1回実施（9月2日）</li> <li>・職員向け防災研修1回実施（8月3日）</li> </ul>	
<p>専門性の向上とセンター的機能の充実</p>	<p>○児童生徒の教育活動や家庭生活において、多面的な理解と多角的な支援を行う。</p> <p>○センター的役割の推進と特別支援教育の充実のため、地域向けの研修会の開催と、学区域内の保幼小中高などへの校外支援を行う。</p> <p>（活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ST、OT、PTなど専門的な視点からの支援相談ができる環境を整える。また、ケース会議、アセスメントや情報発信により、よりよい支援を提案する。</li> <li>・地域のニーズを把握した上で、地域向けの研修会を年間3回実施する。（子ども支援；夏期特別支援教育研修、地域支援；体験研修2回） また、巡回・要請相談に出向き、支援について提案する。</li> <li>・夏季休業中に校外の参加者も募った研修会を行う。</li> </ul> <p>（成果指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ST、OT、PT、校内サポート相談、アセスメント、関係者支援会議、各種情報発信、支援マッチングバンクを活用したグループが80%以上</li> <li>・教職員向け研修会参加者の満足度85%以上</li> <li>・年間50件以上の校外支援を実施</li> <li>・今年度は目標設定と評価を中心に研修を行う。外部講師より助言、指導を仰ぐ研修会オンラインを活用しながら実施し、校外の教職員への発信をする。</li> <li>・研修後のアンケートにおいて、回答率87%以上を目指す</li> </ul> <p>○働き方改革に基づいた働きやすい職場づくりに取り組む。</p> <p>○情報の整理と共有により、業務の効率化をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に授業改善研修として研修班別に授業検討会を持った。12月に授業改善研修として研修班別に2回目の授業検討会を持った。</li> <li>・6月に授業検討会を対象グループと研修担当向けに実施し、11月に全体で授業検討会を実施した。いずれも外部講師による助言、指導を仰いだ。</li> <li>・1月のまとめ研修では抽出グループの授業実践を資料の共有という形で行った。</li> <li>・100%のグループが、子ども支援部の各種支援のうち何らかを利用した。</li> <li>・主催の夏季特別支援教育研修の満足度100%</li> <li>・1月末日現在、51件の校外支援を実施した。</li> </ul>	
<p>働きやすい職場づくり</p>	<p>（活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日を月2回設定、定時退校できた職員80%以上</li> <li>・会議時間の設定を60分以内とし、時間内に終了した会議の割合85%以上</li> </ul>		

働きやすい職場づくり	<p>(職員会議・学年会・学部会・分掌会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定どおりに休養日を取得した部活動の割合 100% (成果指標)</li> <li>・ 年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人</li> <li>・ 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人</li> <li>・ 一人当たりの年間休暇日数 17 日以上 (年休・夏季休暇含む)</li> <li>・ 一人当たりの月平均時間外労働 30 時間以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日に退校できた人は平均 60%程度、その週にできた人は 85%程度であり昨年度より割合が増加した。</li> <li>会議の日に定時退校日を設定したことにより定時退校日を意識する人が増えた。</li> <li>・ 予定どおりに休養日を取得した部活動の割合 100%</li> <li>月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 6 人</li> <li>・ 一人当たりの月平均時間外労働 30 時間を超えた延べ人数 1 人</li> </ul>
------------	--	--

#### 改善課題

研修の形式もオンライン前提で計画し、対面でできる時はその良さを生かすなど、昨年度の反省を生かして行うことができた。働き方改革として、学校マネジメント委員会を中心に、配付するプリントの削減、発信する文章の見直し(時候の挨拶や押印の削除など)といった改革を進めることができた。時間外労働時間の減少については改善、定時退校日における取組が進んではいるが、まだまだ数値的な向上を目指すことができるのではないかとと思われる。

#### 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価委員からも意見があった「休憩場所」「休憩時間」や、業務削減を目指した働き方改革についてさらに取り組みを進めていく。</li> <li>・ 感染症に対する規制が緩和されていく中で、改めて地域連携のあり方を再考し、直接交流を中心に取り組みを進める。</li> </ul>
---------------------	--

#### 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は「個」に焦点をあてて教育活動を考える場面が多かったが、次年度は児童生徒の直接的関りを重視した活動や集団の中で力を引き出す活動に積極的に取り組んでいく。</li> <li>・ 直接的な交流体験を増やすとともに、地域への連携を強化する。</li> <li>・ 学習指導要領の理念の実現に対応した教育課程になっているかの視点から、教育課程の再編成を行う。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理マニュアルに関して他校の状況を参考に改定を進める。</li> <li>・ 特性に応じた指導支援、授業等の専門性向上において、新たな外部講師を招き、新しい視点で研修を進める。</li> <li>・ 働き方改革への取り組みを継続し、本校の改革とその効果について検証し、働きやすい環境づくりに取り組む。</li> </ul>